

## 来賓挨拶

### 国土交通省 都市局 審議官 榎 真一 氏

ご紹介をいただきました国土交通省の榎です。本来であれば都市局長の栗田がご挨拶申し上げますところですが、あいにく所用のため伺うことができず、代わってご挨拶を申し上げます。

本日は全国エリアマネジメントネットワークシンポジウムがこうして盛大に開催されますことを心よりお慶びを申し上げます。また、開催にあたりましてご尽力をいただきました小林会長をはじめ関係者の皆様方に深く敬意を表する次第であります。

日本の都市政策やまちづくりは、高度成長期に人口が増えて都市がどんどん拡大していく時代には、街路、公園、下水道をつくる都市計画に邁進してきました。人口減少時代の到来を迎え、高齢者が増え、子供たちをどうするのかということが、全国で問題になっております。出来上がった都市の姿を振り返りながら、これから少しでも暮らしやすいそして生活の質を高めることができる街に、私たちが変えていく必要があると思っております。街を育む時代がやってまいりました。既に全国のまちづくりの現場を見てみますと、エリアマネジメント活動、リノベーションまちづくり、道路や河川、公園といった公共空間を活かしたにぎわいづくり、様々な取り組みがいろいろな方々によって手がけられております。こうした活動は、最初は社会実験的な小さな取り組みから始まりました。その代表事例が先ほど小林会長からもお話のあった大丸有のまちづくり協議会であります。打ち水、綱引きや、芸術作品が並んですぐ歩いて楽しい空間がこの街では生まれてきております。

そうした全国の方々の活動をもっと後押しをしたいと、わたし達はそうした同じ気持ちをもって、昨年、都市緑地法等の一部改正法を出しました。都市公園ができたけどもっと使われるといいね、公園に保育所をおければ待機児童の問題で困っている方々も救われるかもしれない、高齢者の福祉施設を設置できないか、カフェを置いたらお客さんがきて公園がもっといきいきするのではないか、そういった法改正をしたのが1年前であります。例えばカフェは、全国50の地域で具体の取り組みが始まり、200の自治体で検討を始めていただいています。

そして、今国会では都市のスポンジ化対策といったことを法案として提出しました。これからは歩いて暮らせるコンパクトな街をつくり、公共交通で結ばれた社会に変えていかないと車を運転できない高齢者も大変ということで「コンパクトシティ」の旗を掲げてやっております。ところが中心市街地を見てみますと、シャッターが閉まった商店街、空き地や使われない不動産、駐車場があり、スポンジのようにポコポコと穴がいっぱい空いています。この問題をどうしたら解決できるか、やはり頼りになるのは市民の皆さんです。一つ一つの空き地をこんなふうに使えばもっとこの街は元気になるという声を上げていただき、現場で動いていただく仕掛けを国会には法律案として提出しました。4月に成立しましたので、

私たちはこれをぜひ積極的に使っていきたいと思っております。

そして冒頭ご紹介がありましたように、内閣府ではエリアマネジメントの財源をどうするのかという課題に正面から応えて、新しい負担金制度を創設していただいております。国土交通省といたしましては、内閣府はじめ関係省庁地方公共団体、そして何よりもエリアマネジメントの活動に従事されておられる市民の皆さんと一緒に、街を育てる取り組みを一生懸命やってまいりたいと思っております。今後の皆様方の大いなる活躍と一緒に考えていければと念じております。

結びになりますが、今日のシンポジウムが大成功のうちに終わりますこと、そしてご参会の皆様方のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げましてご挨拶とさせていただきます。